

# 本音 インタビュー

長坂養蜂場社長

長坂 善人氏

震災被災地を  
花の種で応援

1935年創業の浜松市北区三ヶ日町の蜂蜜専門店で「感謝、報恩、三方よし」を創業の精神に掲げ、会社を挙げて社会貢献に取り組む。東日本大震災の発生後は、福島県を応援する「ひまわり里親プロジェクト」に力を入れる。

—プロジェクトの内容は。

「福島県の授産所が袋詰



ながさか・よしと 旧三ヶ日町出身。大学卒業後、東京都内の民間企業などで数年間働き、2005年に入社。専務取締役を経て13年10月に3代目社長に就任した。40歳。

## 温かい接客につながる

めしたヒマワリの種を全国の学校、企業、個人が購入し育て、再び採れた種を福島に送る取り組み。福島で咲いたヒマワリが観光のきっかけになり、障害者の仕事の創出にもつながる。震災発生の1年後から参加し、社員のアイデアで通信販売の商品を送る際に種を同封して、支援の輪を広げた。福島に送る種の量も年々増えて、ことし3月に開かれた実践例の発表会で「ひまわり甲子園」で企業部門の最優秀賞を受賞した

—被災地支援を始めたきっかけは。

「月1回の地域清掃や地元名所のマンサク群落の維持管理など、震災以前から社会貢献に力を入れてきたので、自然な流れで復興支援も始まつた。私自身も宮城県石巻市雄勝町にボランティアで訪れ、津波被害を目の当たりにした。力にならなければ。

「養蜂は自然がなければ成立しない商売。地域の恵みに感謝して報いるマインドが創業以来、会社に根付いている。特にメリットを

意識していないが、活動で育まれた心遣いや思いやりが会社の目指す『ぬくもりの接客』につながつてゐるかも知れない。最低限の接客マニュアルしか用意されていない中で、スタッフには目の前のお客さんを喜ばせようと自發的に工夫する姿勢が浸透している」

(聞き手)細江支局・柿田史雄)

りたいとの思いは強い  
—今後の支援は。

「お客様を巻き込み継続的に支援したい。1回100円で缶バッジ入りカプセルを貰える『ガチャガチャ』を震災後から店内に設置し、売り上げを被災地に全額寄付している。子ども

が全部集めようと何度も買つてくれるようになった。クラーの缶バッジを数種類そろえたところ、お客様の興味を引きそうなキャラクターの缶バッジを数種類開かれた実践例の発表会で「ひまわり甲子園」で企業部門の最優秀賞を受賞した赤十字社と福島のNPO団体に贈った。震災の風化防

止を兼ねて毎月11日には会社のフェイスブックでこの取り組みを紹介している

—なぜ社会貢献に取り組むのか。

「養蜂は自然がなければ成立しない商売。地域の恵みに感謝して報いるマインドが創業以来、会社に根付いていている。特にメリットを